

# 大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町 京都大学教育学部図書室 (竹村心気付)

TEL 075-751-2111 (内3013)

## 大学図書館問題研究会京都支部 第5回支部総会議案

1982年9月18日午後2時～5時  
京都大学経済学部12演習室

### 第1号議案 1981年度の活動の総括と1982年度の方針

#### I 大学図書館をめぐる情勢

「転換期に立つ大学図書館と大図研の課題」参照

#### II 1981年度の活動総括

##### 1. 1981年度の活動の特徴

- (1) 会員を倍加(58名→128名)することによって、支部活動にひろがりがあった。
- (2) 研究委員会「アンケート」回収率90%の達成は、会員の研究意欲をひきだし、研究動向、関心等を知ることができた。
- (3) 一つの研究グループから、六つの研究グループに増やすことによって、グループ研究にひろがりがあった。
- (4) 会報のタイプ印刷の実現は会員の研究成果の発表の場をひろげた。
- (5) 支部会費1,000円の徴収を実現し、会費納入率92%を達成したことにより、会報のタイプ印刷、例会の講師謝礼、未会員への宣伝等ができた。

##### 2. 1981年度の活動の成果と今後の課題

#### A. 研究活動

- (1) 会員の研究意欲が高まってきた。
- (2) 「全国研究集会」への報告や「論文集」

への投稿に見られるように会員の研究成果が一定生まれた。

- (3) グループ研究が育ちつつある。
- (4) 全国共同研究プロジェクト企画は多くの大学図書館員に期待され、支持されてきている。
- (5) しかし、まだ、多くの会員が研究テーマを持つにいたっていない。
- (6) 大学における教育と研究をテーマにした月例会を企画・実行したが、多くの会員の関心を得ることができなかった。

#### B. 出版活動

- (1) 会報のタイプ印刷(No.14~22)を実現した。
- (2) 会員の研究成果の発表の場をひろげた。
- (3) しかし、研究企画と編集企画との結合が不十分であった。
- (4) また、定期化(毎月1日発行、年10回)ができなかった。
- (5) 研究成果の安定した発表の場を保障することが今後、必要である。

#### C. 組織活動

- (1) 会員の倍加を達成した。
- (2) 京都大学・京都工芸繊維大学・同志社大学・立命館大学で班活動がはじまった。
- (3) しかし、会員が研究テーマを持ち、研究活動をすすめるための班活動にまで至って

いない。

- (4) 京都産業大学・平安女子短期大学に新たに会員が生まれたが、今後、中小規模の私立大学（短期大学を含む）に会員を増やすことが重要である。
- (5) 公共図書館問題や出版流通問題にも取り組む必要がある。

#### D. 財政活動

- (1) 支部会費 1,000 円の徴収を実現し、会報のタイプ印刷、月例会の講師謝礼、未会員への宣伝等ができるようになった。
- (2) 1981 年度会費納入率92%を達成したが、今後、ボーナス時の前納制をも含めて、完納体制を確立し、会員倍加にふさわしい支部活動を支えなければならない。
- (3) より多くの会員の研究成果の発表の場を保障するため、大図研出版物の継続予約購読制度を設ける必要がある。

### Ⅲ 1982 年度の活動方針

#### 1. 活動の基本目標

- (1) すべての会員が研究テーマを持ち、研究成果を発表する。
- (2) 「大学図書館の日常業務改善の課題」にもとづいて、自館の現状と課題を調査・研究する。
- (3) 一人ひとりの会員の日常的な研究活動を育てる班活動を創造する。
- (4) 会員のいない大学図書館を減らし、短期大学図書館に会員を増やす。
- (5) 滋賀支部を結成する。

#### 2. 活動の具体的目標

##### A. 研究活動

- (1) すべての会員が「大学図書館の日常業務改善の課題」にもとづいて、自館の現状と課題を調査・研究する。
- (2) すべての会員が「研究課題と計画」（仮称）を班へ登録し、研究を交流しよう。
- (3) 研究グループ活動を定着させる。
- (4) 全国共同研究プロジェクトへ参加する。
- (5) 「月例会」は会員の研究成果の発表と検討の場とし、その予稿を「会報」に掲載する。
- (6) 支部研究集会を開催する。

- (7) 1982 年度の月例会企画を早期に組織する。（「図書館見学会」「西洋書誌学入門」等も含める。）

##### B. 出版活動

- (1) 「会報」は年間10回4頁タイプ印刷にする。
- (2) 月例会での研究発表の「予稿」を掲載する。
- (3) 大学図書館に備えるべき10冊の参考図書の問題を連載する。
- (4) 『大学の図書館』に調査・研究の成果を投稿する。<sup>117</sup>
- (5) 大学研出版物 継続予約購読（年間4冊5,000円）をすすめる。

##### C. 組織活動

- (1) 一人ひとりの会員の日常的な研究活動を育てる班活動を創造する。京都大学には「班連合」（仮称）をおく。
- (2) 滋賀支部を結成する。
- (3) 京都・滋賀の大学図書館員の2割<sup>165</sup>（<sup>175</sup>名）を組織する。<sub>1/2</sub>
- (4) 10名以上の図書館員のいる大学と短期大学図書館に会員を増やす。
- (5) 公共図書館問題や出版流通問題に取り組むために、図問研と共同する。

##### D. 財政活動

- (1) ボーナス時の前納制を含め、年度会費の完納を実現する。
- (2) 大図研出版物継続予約購読者を会員の80%まで実現する。
- (3) 班に財政担当者をおく。
- (4) 講師の謝礼は参加費をもってあてる。

### 第2号議案 1981年度の決算報告と1982年度の予算案

#### 1981年度 決算報告

収入	
1980年度繰り入れ	96,332
還元金および支部費	
（1981年8月1日～	
82年7月31日）	249,200
利息	121
合計	<u>345,653</u>

支 出		
会 報 費		141,000
通 信 費		31,490
会 議 費 お よ び 紙 代		7,700
謝 礼 費		33,000
雑 費		1,180
小 計		<u>214,370</u>
1982年度還元金および		
支部費(67名)		113,900
1982年度への繰り越し		17,383
合 計		<u><u>345,653</u></u>

### 1982年度 予算案

収 入		
還元金および支部費		212,500
(会員数 125 (119 + 6) × 1,700)		
1981年度繰り入れ		17,383
合 計		<u><u>229,883</u></u>

支 出		
会報費 14,000 円 × 10 回		140,000
通 信 費		40,000
謝 礼 補 助 費		20,000
会 議 費 お よ び 紙 代		10,000
雑 費		19,883
合 計		<u><u>229,883</u></u>

## 大図研京都支部 第5回支部総会 資料

### 1982年度 支部活動日誌

1981.

9. - 「機械化」グループ例会「日本目録規則の歴史的変化について」
9. - 立命館大学班例会「司書講習参加者体験報告」
- 9.26.第4回支部総会 京都教育文化センター7号室 19名5大学参加
- 9.26.第1回支部委員会 支部役員選出
- 9.26.京都支部懇親会 京都大学京園 12名参加

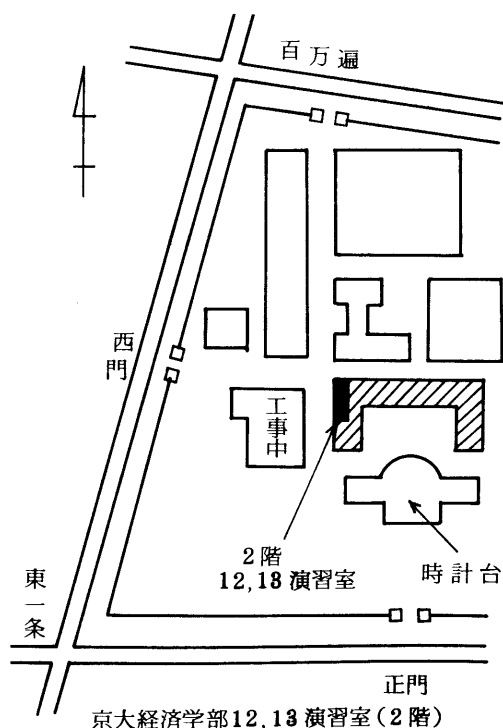
10. - 「機械化」グループ例会「日本目録規則新版と1965年版の比較」
  10. - 立命館大学班例会「戦後立命館大学図書館史」長屋善晶氏
  - 10.24.第2回支部委員会 京都大学経済学部 図書室
  - 10.30.第3回支部委員会
  - 10.31.京都大学班例会「書誌作成グループ活動交流」
  11. - 「機械化」グループ例会「NCR新版統制について」
  11. - 立命館大学班例会「長野史誌考について」
  - 11.7.関西3支部定例協議 初顔合せ 今年度活動について
  - 11.21.京都支部例会 事例報告 書誌研究 報告者 柴田正子氏, 林茂栄氏, 京都大学理学部小会議室 22名6大学参加
  12. - 「機械化」グループ例会「日本目録規則新版とISBDの比較研究」
  - 12.19.第4回支部委員会 京都大学教育学部
  - 12.26.京都大学班例会「来年の抱負を語る」忘年会
- 1982.
1. - 「機械化」グループ例会「NCR新版の実例集をみながら学習」
  - 1.8.第5回支部委員会 京都大学教育学部
  - 1.16.科学・技術と学術情報問題研究グループ(科学研)結成5名
  - 1.16.関西3支部合同定例協議 新春合同例会打合せ
  - 1.23.関西3支部新春合同例会「図書館と研究と教育」杉原四郎氏講演 13名参加
  2. - 「機械化」グループ例会「NCR新版の実例集をみながらの学習」
  2. - 立命館大学班例会「島根大学図書館の事例研究」
  - 2.6.京都大学班例会「アメリカ女性図書館員問題について」篠原俊夫氏報告 京都大学教育学部
  - 2.13.滋賀支部結成準備会 第1回交流会 滋賀医科大学 7名2大学・1短大・

1 書店参加

- 2. 27. 京都支部例会「大学図書館利用法」  
石塚栄二氏講演 同志社大学学生会館  
29名7大学参加
- 2. 27. 第6回支部委員会 同志社大学学生会館
- 3. - 「機械化」グループ例会「今後のグループ研究について」
- 3. 6. 滋賀支部結成準備会 第2回交流会  
滋賀大学経済学部図書館 2大学1短大7名参加
- 3. 6. 京都大学班例会「資料研究」
- 3. 13. 京都支部例会「80年代の科学・技術と学術情報」小沼通二氏講演 京都大学理学部小会議室 17名（うち5名大学院生）6大学参加
- 3. 20. 関西3支部定例協議会 全国研究集会について
- 3. 27. 科学研月例会「アメリカの情報政策」  
報告者 鈴木重夫氏 京都大学教育学部 5名参加
- 4. - 「機械化」グループ「AACR2について概説」
- 4. 1. 第7回支部委員会 京都大学教育学部
- 4. 3. Mount, Ellis: “University Science and Engineering Libraries” の翻訳参加のよびかけ
- 4. 12. 同上図書の第10章翻訳決定 13名参加
- 4. 17. 滋賀支部結成準備会 第3回交流会  
「学生への貸出を伸ばすために」滋賀医科大学図書館 5名2大学・1書店参加
- 4. 24. 京都支部例会「大学図書館における情報処理トータルシステムについての現状と課題」柴田正美氏講演 16名4大学参加
- 4. 26. 京都大学班幹事会
- 4. 26. 第8回支部委員会 京都大学教育学部
- 5. 8. 滋賀大学教育学部図書館訪問
- 5. 15. 全国研究集会 東京 全体141名 京~16. 都支部23名9大学参加
- 6. - 「機械化」グループ例会「The Concise AACR2の翻訳」
- 6. - 立命館大学班例会「長野史誌考その後」

「レーニンの図書館政策」

- 6. 1. 第9回支部委員会 京都大学教育学部
- 6. 5. 京都大学班例会「全国研究集会報告」
- 6. 21. 京都大学班幹事会
- 6. 26. 京都支部例会「大学教育改革」石躍胤史氏講演 京都大学理学部小会議室  
16名7大学参加
- 6. 26. 第10回支部委員会 京都大学教育学部
- 7. - 「機械化」グループ例会“The Concise AACR2”
- 7. - 立命館大学班例会「大会議案書討議」
- 7. 1. 京都大学班例会「大会議案書討議」
- 7. 17. 科学研公開例会「科学史」川合葉子氏  
京都大学理学部小会議室 8名2大学参加
- 7. 17. 関西3支部定例協議
- 7. 21. 京都支部例会「データベース」堀池博~23. 巳氏
- 7. 23. 第11回支部委員会 京都大学教育学部
- 7. 31. 第13回大図研大会 名古屋 京都支部~8. 2. 23名
- 8. 19. 第12回支部委員会 京都大学教育学部



京大経済学部12,13 演習室(2階)

# 京都地区 大学図書館現況

1982. 8. 19

大 学	職 員 統計(兼・臨)	会 員	会 員 率(%)	大 学	職 員 統計(兼・臨)	会 員	会 員 率(%)
京 大(含・短)	292 (8.90)	75	26	京 大看護短大	1 (1.0)		
京 教 大	12 (1.3)	1	8	池 坊 短 大	2 (1)		
京 工 織 大	17 (2.4)	5	29	華 頂 短 大	3 (2)		
京 市 芸 大	8 (1.1)			京 文 教 短 大	4		
京 府 大(含・短)	8 (1.0)	2	25	京 短 大	4		
京 府 医 大	5 (2.0)	1	20	嵯 峨 美 短 大	4 (1)		
大 谷 大(含・短)	11 (1)			成 安 女 短 大	3 (1)		
京 外 大	14 (1)			西 山 短 大	0 (2)		
京 学 園 大	6 (1)			平 女 短 大	4 (1)	1	25
京 産 大	34 (1)	1	3	聖 母 女 短 大			
京 女 大(含・短)	20 (1)			京 芸 短 大	3		
京 薬 大	6 (1)			明 治 鍼 灸 短 大	2 (2)		
光華女子(含・短)	7 (1)				30	1	3
種 智 院 大	1 (3)						
橘 女 大	3 (1)	3	100	舞 鶴 高 専	3 (2)		
同 志 社 大	80 (13)	7	9				
同 女 大	8 (1)						
ノートルダム女大	8 (2)			滋 賀 大	18 (3.6)	2	
花 園 大	5 (1)			滋 医 大	16 (1.6)	3	
仏 教 大	15 (1)			滋 県 短 大	5 (2)		
立 命 大	41 (1)	15	37	滋 文 教 短 大	1		
龍 谷 大(含・短)	30 (2)	8	27	滋 女 子 短 大	3 (1)		
京 精 華 大	4 (1)			そ の 他		1	
	685	118	19		43	6	
京 都	668	119	18	滋 賀	43	6	14
大 学 10/23	685	118	19	大 学 2/2	34	5	15
短 大 1/12	30	1	3	短 大 0/3	9		
高 専 0/1	3			その他		1	

( 1981.日本の図書館)

## — 大学図書館の日常業務改善の課題 —

- I 資料の基本的な利用形態である貸出を中心に、利用を伸ばし、図書館活動を活発にしよう。
1. 学生の貸出・利用を伸ばし、資料を一層利用しやすくする方法を考えよう。
  - a. 入館・貸出手続の簡素化をはかろう。
  - b. 通常の貸出冊数・期間を少くとも、3～4冊、10日～2週間にしよう。
  - c. 昼休み、夜間、日曜、休暇中等の開館について、要求に応え、実現できる条件をつくるために努力しよう。
  - d. 学生用図書は、すべて開架に出す方向を追求しよう。
  - e. 求める資料がどこにあるか、すぐわかるように館内の諸配置、配架方法や掲示に工夫を凝らそう。
  - f. 予約、更新、卒論用貸出、試験中や休暇中の貸出、一夜貸出、閉館中の返却（ブックポスト）など、貸出にともなうさまざまな配慮を実施しよう。
  - g. 購入希望図書の申込みを積極的に募り、そのための予算確保、発注・受入・整理の優先処理を追求しよう。
  - h. 利用者の文献探索能力の向上をはかる立場で利用者援助を重視し、利用者の質問には親身になって対応できる業務体制を確立しよう。また、そのために質問内容を記録にとり、とくに未回答の場合は、その原因・対策を考える慣行をつくろう。
  - i. 大学図書館における障害者サービスを制度化しよう。
  - j. 自館にない資料や自館で入手不能の資料に対しては、利用者を利用の便宜をはかろう。
  - k. 学外者も大学図書館を利用できる制度を確立しよう。
1. ガイダンス、新刊案内、文献利用案内、館報などの内容を高め、利用者への働きかけを強めよう。
  2. 大学の教育・研究と図書館利用の関係を強いるため、教員との交流を深めよう。
    - a. 教員との定期的な交流を通じて、教育課程と議義のあり方を理解し、図書館としてさらに協力できる方策がないかを検討しよう。
    - b. 指定図書制度を設けている館では、その利用実態を調べ、その正しいあり方を考えよう。
    - c. 教員の研究課題を把握し、研究者としての教員の要求に応える図書館サービスを確立しよう。
    - d. 教員との交流を通じて、資料研究をすすめよう。
      3. 大学職員に対する業務・研修、福利厚生のための資料サービスを追求しよう。
      4. 自館の図書館利用を調査・分析し、利用者研究をすすめよう。
        - a. 自館の図書館活動を診断評価しよう。そのために、関西の貸出専門委員会の「図書館自己診断表」や東京の大規模調査委員会のアンケート項目、中規模調査報告の統計分析の方法などを活用しよう。
        - b. 他館の活動に学びつつ、自館の問題点を把握し、改善に努めよう。
        - c. 利用者の声をつかむため、学生・院生や教員との懇談会の開催、投書箱の設置など、利用者との交流を深めよう。
        5. 図書館の資料提供の自由と利用者のプライバシーを守ろう。
          - a. 学生・教職員の知る自由を保障するため、図書館の資料提供の自由を守ろう。
          - b. 利用者の読書事実、利用事実に関して、利用者のプライバシーを守り、利用者に信頼される体制を確立しよう。

II 日常的な資料の収集整理体制を確立し、利用者により早く資料を提供しよう。

    1. 選書・発注・受入から利用できるまでの日数をせめて1カ月以内に短縮しよう。

- a. 収集整理時間の短縮, やり残し図書の解消をはかる具体策を立てよう。
  - b. 印刷カードやMARCサービスを実務の面から評価検討し, 自館の実情にあわせて活用しよう。
  - c. 外部委託については是非や範囲について検討し, 必要最小限度にとどめよう。
    - 2. 各館の目録利用の実態を把握し, 利用者が求める資料を容易かつ確実に探し出せる検索手段を整えよう。
    - 3. 収集体制を確立し, 系統的な収書活動を追求しよう。
  - a. 収書方針や収書計画, 選択基準を公表し, それにもとづいて収書活動を遂行しよう。
  - b. 資料の収集には, 閲覧部門の館員の意見を重視しよう。
  - c. 収書方針と利用実態に照らして, 蔵書構成を日常的に点検しよう。
  - d. 自館の特色を生かした最低一つ以上のコレクションを育てよう。
  - e. 図書館員の選書に対する意見を積極的に反映させよう。
  - 4. 学生・教職員の知る自由を保障し, あらゆる資料要求に応えるため, 図書館の資料収集の自由を守り発展させよう。
- Ⅲ. 各種の研修を有効に活用し, 専門的な力

量を身につけよう。

- 1. 各種の研修を有効に活用しよう。
  - a. 研修テーマや研修計画を個人として, また職場としてもつように心がけよう。
  - b. 研修費や研修時間の確保, 自主研修の公務出張などの運動にとりくもう。
    - 2. 主題研究に積極的にとりくもう。
- Ⅳ. 労働組合との協力・共同の関係を維持し職場の民主化と労働条件の改善をはかり, 利用者のための大学図書館づくりにつとめよう。
- 1. 労働条件の改善につとめよう。
  - a. 必要人員は大胆に要求し, その確保につとめよう。定員外職員を定員化しよう。1人職場をなくそう。
  - b. 図書館人事の民主化をはかり, 不当配転に反対しよう。縁故採用をあらため, 公開公募の運動を起そう。
  - c. 定員外, 臨時職員, アルバイトの待遇を改善しよう。
    - 2. 婦人図書館員の働く権利を守り, 発展させよう。
    - 3. 民主的なミーティングの確立をはかり, その形骸化を許さず, 職場集団として大学図書館づくりにつとめる運営を心がけよう。

## 第11回部落問題全国研究集会

### — 『出版の自由と図書館問題』分科会に参加して—

井 上 雅 人

(立命館大学人文科学研究所)

全国部落解放運動連合会の主催する第11回部落問題全国研究集会が5月29日より3日間にわたり, 名古屋で開催された。

私は人文研の部落問題研究室の図書担当者として, 本集会に参加したのですが, 近年, 『長野市史考』問題等, 差別図書をめぐる論議が, 図書館界などでも活発におこなわれる

中で, 本集会においてもこうした状況を反映してか『出版の自由と図書館問題』分科会が新しく設けられ, 『長野市史考』をめぐる問題や, 名古屋市立図書館の経験が報告された。大図研に入会して日も浅く, まだまだ勉強不足の私ですが, 立命大図研でも「図書館の自由」として研究会を重ねてきた問題でもあり

不十分ながら感想もまじえた報告をしたい。

まず基調提案として長野県短大の青木孝寿教授より『長野市史考』にかかわる現況が報告されました。『長野市史考』問題とは周知のように、国立長野高専の小林計一郎教授が1969年に出版した歴史書『長野市史考』の賤民身分についての記述の1部分が不適切または誤解をうける内容があるとして県教委により図書館を含めた各教育機関に同書の閲覧及び保管について行政が介入し、その結果、県立長野図書館が『市史考』を含めた33種の図書を開架から閉架とし、閲覧申請者に対しても厳しい規制をした事件であった。問題はその後、教組、部落研、解連を中心に学問、研究をまもる運動に発展し、教委の主体性の喪失が厳しく批判されることになるのだが、県立長野図書館は部内に「図書館資料研究委員会」を設置し「図書館の自由に関する宣言」をもとに検討をすすめ33種の規制図書を(イ)閉架をやめ開架とする、(ロ)閉架に戻す際啓発資料を添える、(ハ)閉架をつづけるという3方法に分け、30冊まで開架にきりかえるという措置をとったのである。しかし、33種の図書の中には差別図書として秘密裡に回収、絶版となったものもあり、さらにこの後、活発だった県下の郷土史に関する研究が、さっぱり消えてしまい、出されたとしても運動団体公認のものしか出なくなったのである。いまさらながら、出版の自由や学問研究の自由と図書館の自由との深いつながりを感じざるを得ないのである。青木教授も指摘しておられたが、前述の33種の図書の扱いにしても、図書館員が問題化を恐れず真剣に部落問題を学び、「宣言」と結びつけて検討していけば、同和行政、運動の正しい発展につながり、ひいては国民のため図書館の役割も果たせたのではないかと思う。現に図書館人の手によってこのような努力が、いたるところで試みられているだけによい残念に思うのである。

この問題では、その他様々な討議が行なわれたが、長野図書館のとした3方法のうち、啓発資料の添付も疑問が残りました。どのよ

うな基準でいかなる資料を添付したかは明らかではないが、こうした方法は問題の解決とはならないように思う。

分科会の報告としては名古屋市立図書館の梶川雅宏氏より1979年の「名古屋市史問題」での経験が報告されましたが、図書館協会発行の「図書館と自由、第4集-図書館と自由をめぐる事例研究-その2」にも同じ内容で報告されているので重複はさけたいが、感想として、名古屋市立図書館は以前にも「ピノキオ」問題の経験もあり、こうした問題に対する一定の深まりを感じた。ただ、「名古屋市史問題」に職組や図問研が、どうかかわったのかを知る事ができなかったのは残念であった。

分科会に参加してみて、総じて感じた事は図書館、運動団体の両者がこのような場で相互理解を深めた事の積極的意味である。このことは分科会の場でも感想として出された事ではあるが、私も次回よりこの分科会の発展を期待したい。





## 講演「大学図書館における情報処理トータルシステムの現状と課題」を聞いて

那 須 たみ子

(京都大学理学部図書室)

先般、京都支部例会で「大学図書館における情報処理トータルシステムの現状と課題」と題して柴田正美氏による講演が行なわれました。

昭和53年～54年にかけて文部省特定研究により上記に関連する調査・研究が頻繁に行なわれ、その報告も出されていますが、それらに関わってこられ、また、大図研の会員でもある柴田氏の報告は、いろいろ考えさせられる点がありました。詳しい内容は、それぞれ出されている報告集(註1)にたよるとして、ここでは、その打出された問題点をいくつか述べることにします。

一連の調査・研究の方向として

- (1) 全国的ネットワーク・センターを形成する
- (2) 目録業務の諸問題について
- (3) 学術雑誌総合目録作成の諸問題についてなど主に3本の柱について検討されてきたようですが、その中でも①学術情報センター構想とNISTとの関係、②情報検索システムにおける人文・社会科学系の将来、③情報が集中管理された場合の様々な危惧、④国内でのデータベース作成の現状、などなど率直な疑問が出されました。

① NISTとの関係については、NISTは民間企業主導型のものであり、経済の変動によりその情報の中味も左右されるものであるが、今後、目指す学術情報センターは、そのようなものであってはならない。

② 人文科学系の将来については、その学問分野のもつ特殊性からいろいろな意味でシステム化は多難である。

③ 情報が集中管理されていく際、その情報を誰(どの階級)が管理するか、非常に重要な問題であり、いつ、どんな時においても、情報処理はよいが管理は困る。

④ データベース作成については、日本独自では、まだわずかしかが作られておらず、検索が理想的に行なわれているところは末だない。今後どうしていくかが課題である。

などなど、質問に対する回答が出されました。

今後、推し進められるであろうこれらの情報システムの中で、図書館はどのようなことができるのか、そこで働く私たち図書館員の運命(?)は - 「果してライブラリアンはデータベースを使いこなせるのか、それとも、Information specialist にゆだねざるをえないのか?」と私自身の胸の内にも渦まく不安と疑問は、解決されないまゝに終わりましたが、これらの問題については、ぜひPart IIで企画してほしいと願っています。

柴田氏は最後に「情報の整理と有効な利用について、私達は今後、拒否するのではなく、より便利な方向で追求していかなければならない時にきていると思うが、質問にも出たように、情報が集中管理されればされる程、その情報をどの階級が握るのか大きな問題であり、情報が処理はされても管理はさせない様、チェックしていく必要がある。これらは、大図研の大きな課題でもある」と印象深い言葉で結ばれました。

(註1)「昭和56年度学術情報センターシステム開発調査概要」

文部省学術国際局情報図書館課

「昭和56年度学術情報センター設置調査概要」  
上同じ

「大学図書館の機械化」

国立大学図書館協議会

図書館機械化調査研究班編

紀伊国屋書店

第5回支部総会議案書の正誤表

- P1. 右上5L 大学図書館員は → 大学図書館員に  
P2. 右上11L 大学研出版物 → 大図研出版物  
P2. 右下13L 2割 ( / 75名 ) → 2割以上 ( / 65名 )  
P3. 左下11L / 982年度 → / 98 / 年度  
P3. 右上11L 統制 → 統制を削除  
P5. 右上7L ~~議案~~ → ~~議案~~

第5回支部総会日程案

- PM2:00~2:05 支部長挨拶  
2:05~2:10 委員長挨拶  
2:10~ 議長団選出  
2:35 第1号、第2号議案提案説明  
2:35~2:50 全体会 質疑・討論  
2:50~4:40 分散会  
第1分散会 第12演習室  
第2分散会 第15演習室  
第3分散会 13 "
- 4:40~ 全体会 総括討論・決議  
1982年度支部委員選出  
第1回支部委員会
- 5:00 閉会の辞

分散会参加者名簿

第1分散会

◎成山・~~足~~・片山・~~華~~川・田中・中島・~~齊~~藤・~~水~~野・鈴木・根岸・酒井・山下  
平

第2分散会

◎竹村・渡辺幸・沢田・松井・福井・林・船越・堤豪・篠原・中野・渋田

第3分散会

◎篠原俊・渡辺敬・大沢・祖上・沢居・黒田・谷口・平元・若井・村上・大沢